2020年
第51回

東海伝統工芸展

第51回
東海伝統工芸展
Online Exhibition

会期

2020年4月21日(火)～

主 催 (公社)日本工芸会・(公社)日本工芸会東海支部・中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 愛知県教育委員会 名古屋市 名古屋市教育委員会
NHK名古屋放送局 岐阜県 岐阜県教育委員会 岐阜市
岐阜市教育委員会 NHK岐阜放送局 三重県 三重県教育委員会
四日市市 四日市市教育委員会 NHK津放送局 静岡県
静岡県教育委員会 静岡市 静岡市教育委員会 NHK静岡放送局

公益社団法人 日本工芸会 東海支部

ごあいさつ

我が国には、世界に卓越する工芸の伝統があります。伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、とどまることのないのが本来の姿であります。

公益社団法人 日本工芸会東海支部（愛知･岐阜･三重･静岡）は、文化財保護法の趣旨にそって、伝統工芸の技法を錬磨して精髄を極め、新しい感覚が織りなす明日につながる工芸作品を創作することを目的にしています。

陶芸、染織、漆芸・木竹工、人形、金工・諸工芸の五部会にわたり、広く一般から工芸作品を公募し、各作品を厳重審査して、その入選作品により東海伝統工芸展を開催します。将来の伝統工芸を担う人材を育成するとともに、工芸の健全な発展と文化の向上に寄与してまいります。

よろしくご鑑賞たまわりますよう、お願い申し上げます。

公益社団法人 日本工芸会東海支部
幹事長　名 倉　鳳 山

入賞・入選
招待作品

入賞作品 ―― 1
入選作品 陶芸（第一部会） ―― 9
染織（第二部会） ―― 23
漆芸・木竹工（第三部会） ―― 29
人形（第四部会） ―― 32
金工・諸工芸（第五部会） ―― 34
遺作 ―― 36

入 賞 作 品

13　**日本工芸会賞**　色絵流加彩割鉢　39.6×43.6×19.5　梅本孝征

95　**東海伝統工芸展賞**　友禅着物「芭蕉の下で」　遠山尚子

81　**愛知県知事賞**　花紗織着物「水ぬるむ頃」　磯　緋佐子

69　**岐阜県知事賞**　鉄絵掛分釉描大鉢「美男葛」　53.0×53.0×12.0　前田正剛

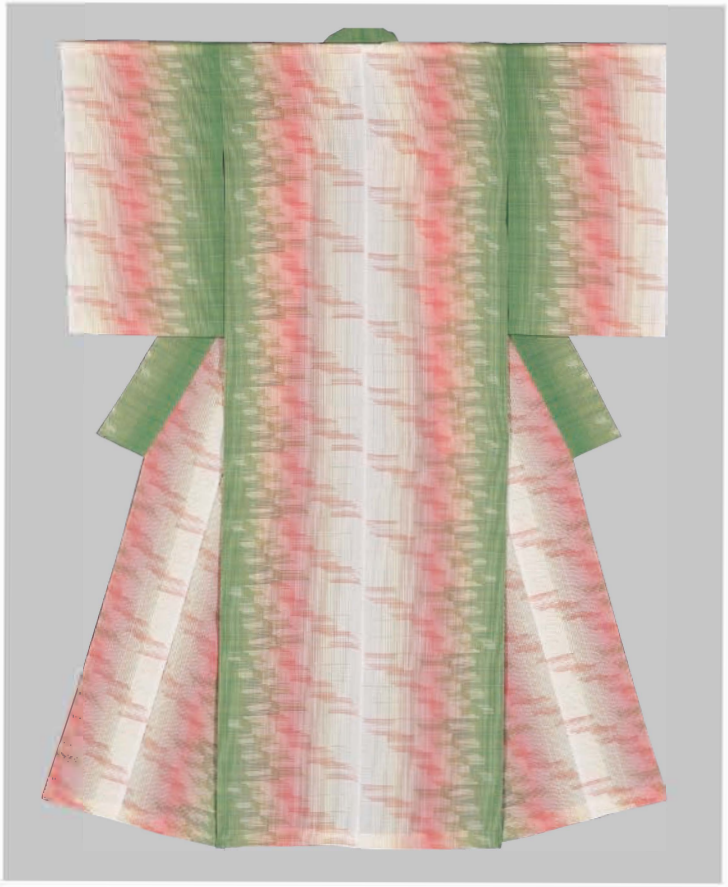
144　**愛知県教育委員会賞**　Fountain#1－Space－　20.0×20.0×2.5　名倉達了

128　**岐阜県教育委員会賞**　桐塑糸紙貼「茜空」　11.0×13.0×29.0　阪上展子

6　**三重県教育委員会賞**　志野彩文花器　40.0×40.0×24.5　伊藤公洋

45　**静岡県教育委員会教育長賞**　萬古黒角文鉢　33.0×33.0×32.0　清水　潤

121　**名古屋市長賞**　神代杉木画箱　22.5×22.5×8.0　馬淵弘幸



86　**名古屋市教育委員会賞**　生絹着物「水辺の譜花の詩」
神谷あかね

119　**中日賞**　万華鏡蒔絵合子　24.0×24.0×9.0　古田　一

135　**NHK名古屋放送局長賞**　有線七宝八角箱「氷河」　19.8×19.8×8.0　池田貴普

103　**安藤氏賞**　畝織着物「花筏」　水谷陽子

133　**岐阜髙島屋賞**　桐塑紙貼「風船」　6.0×7.0×22.0　松本詩織

67　**東濃信用金庫賞**　天青器　34.0×34.0×35.0　プーチン

50　志野茶碗　12.5×12.8×10.7　鈴木　藏　　重要無形文化財保持者　招待

21　黄瀬戸花入　12.3×12.3×22.7　加藤孝造　　重要無形文化財保持者　招待

31　あけぼの彩　茶注　10.2×12.0×9.0　鯉江　廣　**審査・特待**

38　藍色志野壷　35.0×35.0×36.5　酒井博司　**審査・特待**

46　萬古楓文急須　12.0×15.0×11.0　清水醉月　**審査・特待**

52　緑釉鉢　34.5×34.5×12.5　鈴木　徹　**審査・特待**

9　練込大鉢　46.0×46.0×12.0　伊藤雄志　**特待**

56　鉄釉彩鉢　43.0×43.0×12.5　谷川省三　**特待**

57　灰釉彫紋皿　51.5×51.5×5.5　田沼春二　**特待**

58　織部茶盌　13.3×13.3×10.2　玉置保夫　**特待**

68　鉄釉銀彩壷　41.0×42.0×41.0　古田正己

55　朽葉釉波紋壷　30.0×30.0×34.0　田中　孝

66　三層表裂壷　28.0×28.0×36.0　野末静代

8　緑釉花器　30.5×30.5×30.0　伊藤進矢

19　黒彩線文花器　28.0×28.0×41.0　春日井正人

76　炭化焼〆壷　33.0×33.0×40.0　薮谷尚子

4　泥彩樹皮文花器　25.0×25.0×41.0　石塚　操

47　織部彫紋壷　29.0×29.0×29.0　清水　進

54　灰釉彫紋花器　31.0×31.0×48.0　武村豊徳

44　練込鉢　27.5×27.5×40.5　清水　潮

49　象嵌花文花器　23.0×23.0×39.0　清水美香子

42　硬から溶へ「花器」　20.0×36.0×52.0　澤田朋大

15　吹墨岩絡幾何文扁壺　26.0×32.0×37.0　太田公典

77　紺彩泥線文花器「流星」　30.0×35.0×34.0　山口　剛

25　白緑釉広口花器　38.0×42.0×42.0　加納真爾

29　緋色壺　33.0×33.0×42.0　草間祥介

79　辰砂花器　28.5×28.5×30.0　杉山哲子

14　備前練込広口花器　35.0×35.0×30.0　江口葉菜子

11　草図花器　19.0×19.0×45.5　岩渕　寛

12　象嵌壷　15.0×15.0×38.0　上田敏久

3　青釉花器　36.0×36.0×30.0　東　正之

36　染付深鉢　鯨　42.5×42.5×26.5　小枝真人

41　鉄絵山帰来文鉢　36.2×36.2×21.8　佐藤文子

30　赫釉花器　41.0×41.0×28.0　黒岩達大

24　藍彩鉢　45.0×45.0×22.5　加藤　裕

1　釉はじき大鉢－薫風－　46.5×46.5×18.0　明石朋実

20　織部流華紋鉢　41.3×46.1×15.8　加藤圭史

63　灰釉緑彩鉢　46.0×46.0×16.0　冨田浩一

37　椿紋大皿　50.0×50.0×12.0　酒井紫羊

22　志野鉢　46.0×46.0×20.0　加藤尊也

39　透光磁練上「知床・アモーレ」朝　42.5×42.5×10.0
ささき美鳥

64　象嵌泥彩花器　26.0×59.0×20.0　西田真也

71　青街図鉢「夕景」 42.0×42.0×21.6　宮下　陽

51　志野大鉢　36.8×36.8×14.6　鈴木　健

62　sea－Ⅱ　38.8×39.0×20.0　戸田奈都子

32　灰釉盤「風」 52.0×52.0×12.0　小出芳弘

61　黄瀬戸鉢　41.5×44.0×17.0　徳川　浩

26　自然薯文皿－螺層－　47.9×47.9×8.5　柄澤あかり

40　染付芙蓉文皿　47.5×47.5×10.0　佐藤征司

73　鉄線文鉢　43.0×43.0×11.0　森本静花

74　彫文鉢－崑崙花－　48.5×48.5×14.5　屋我優人

53　灰釉大皿　53.0×53.0×8.0　竹内孝一郎

23　色絵松文皿　41.5×41.5×9.0　加藤登紀子

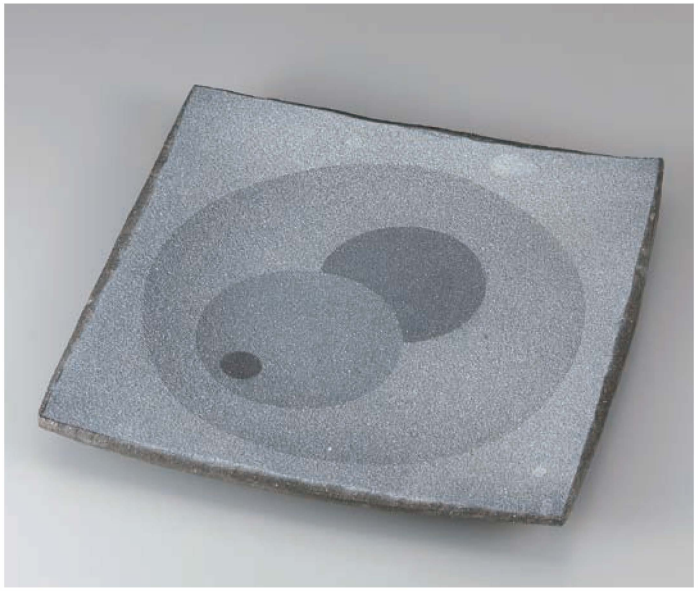
16　青白磁花文大皿　50.0×50.0×9.0　大谷鉦五

65　鉄釉幾何文鉢　46.0×46.0×10.0　二橋奈美

59　白瓷鉢　46.0×46.0×13.5　塚本　満

78　黄瀬戸大皿　53.0×53.0×7.0　山田英典

43　彩磁アカンサス文大皿　49.5×49.5×6.2　島田文雄



35　志野掛角皿　43.0×43.0×5.0　斉藤之康

33　彩華釉鉢　49.0×49.0×11.0　小山裕之

17　染付角陶筥里山　17.0×22.5×15.8　大野淳一

75　cross stripes bowl　37.8×37.6×20.0　矢作　薫

80　粉青瓷茶垸　12.0×14.0×10.3　若尾　誠

27　古美濃花入　40.8×41.2×21.5　木村　元

2　練上桜花紋組鉢　23.0×23.0×5.5　浅野紀胡

28　黄瓷輪花組鉢　16.0×16.0×6.0　木村将人

7　夏の園　24.0×24.0×6.0　伊藤彩希

10　染付どくだみ文組鉢　23.5×23.5×6.5　井上　匠

18　霧染組鉢「朝顔」　23.0×23.0×5.5　小形こず恵

34　青瓷組皿　23.0×23.0×4.1　近藤淳子

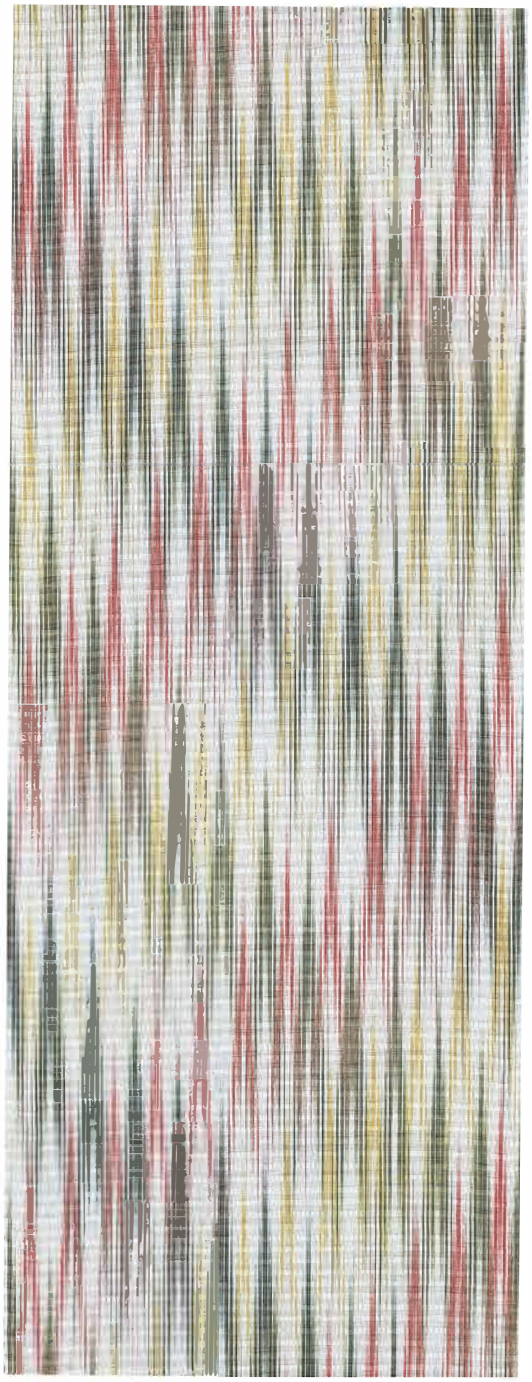
48　焼締南蛮窯変急須　10.0×10.0×7.0　清水北條

70　焼締南蛮線紋茶注　12.0×14.0×9.0　水野陽景

72　窯変茶注　11.5×12.5×8.8　森下松斎

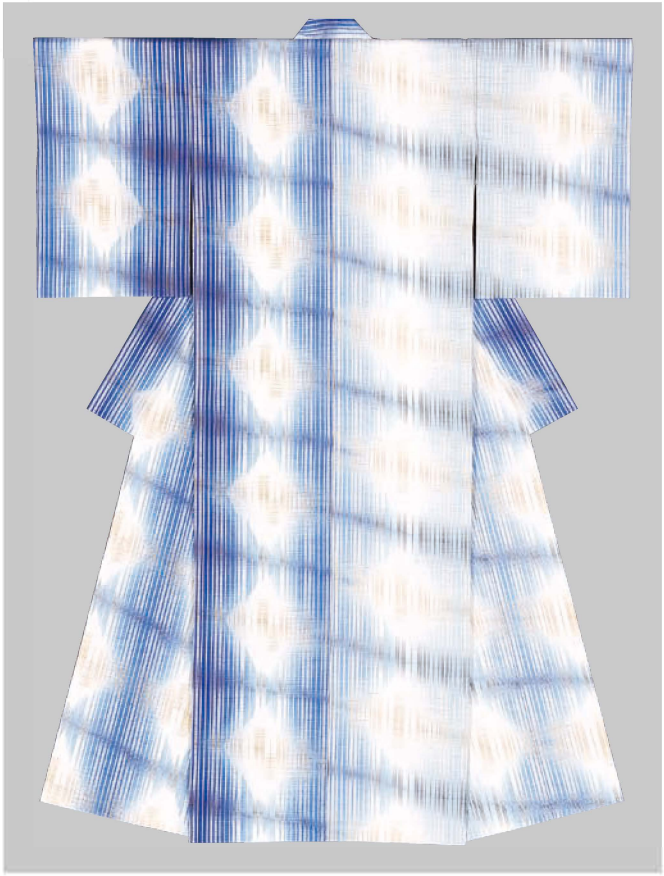
60　藻がけ渦文緋窯彩茶注　11.0×13.0×10.0　土平栄一

5　油滴天目釉組鉢　20.0×20.0×7.5　市川繁男



94　紋紗帯地「萩瀧」　土屋順紀
重要無形文化財保持者　審査・招待

87　織帯「銀杏」　小林敬子　　**特待**



101　ほぐし絣着物「洋」　間瀬邦子　**特待**

88　風通織木綿着物「野に遊ぶ」　小林佐智子　**審査・特待**

93　型絵染着物「湿原の春」　田中さと子

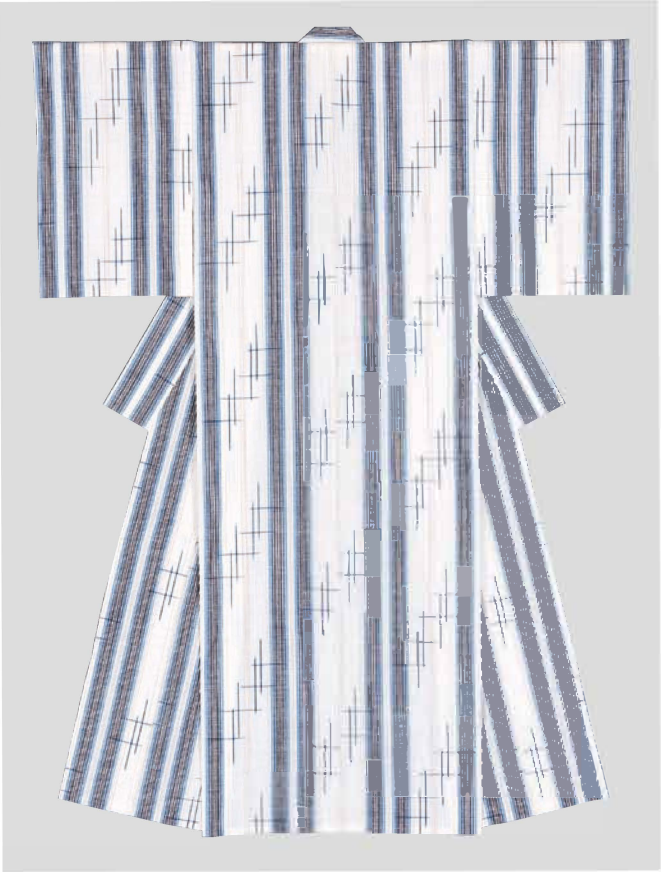
97　型絵染着物「シクラメン」　中野とも子

82　吉野格子紬織着物「春への道」　伊藤紗綾

84　紬織着物「うめ」　奥中竹代

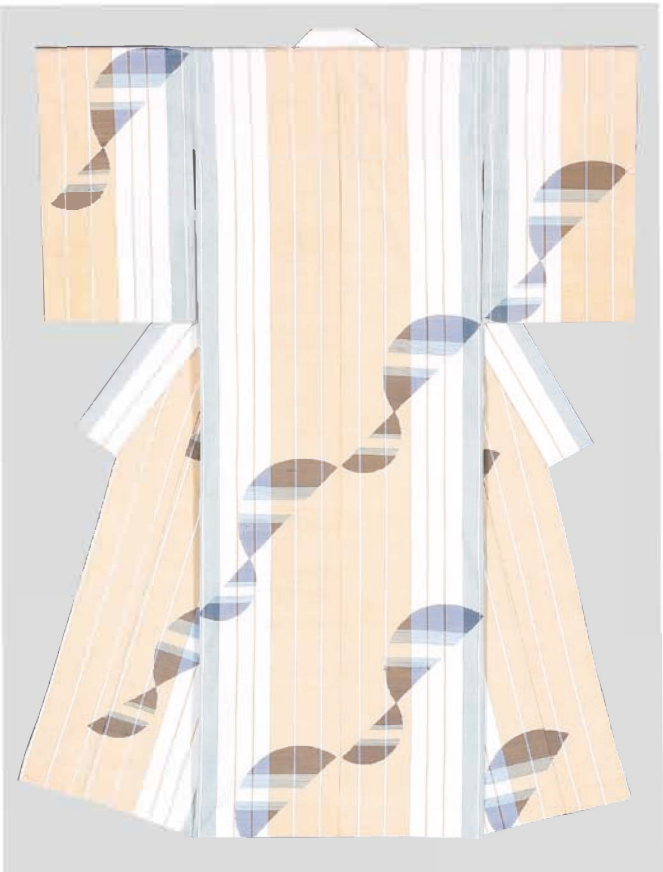
90　紬織着物「かごめ」　杉浦雅子

91　生絹着物「小波」　鈴木　節

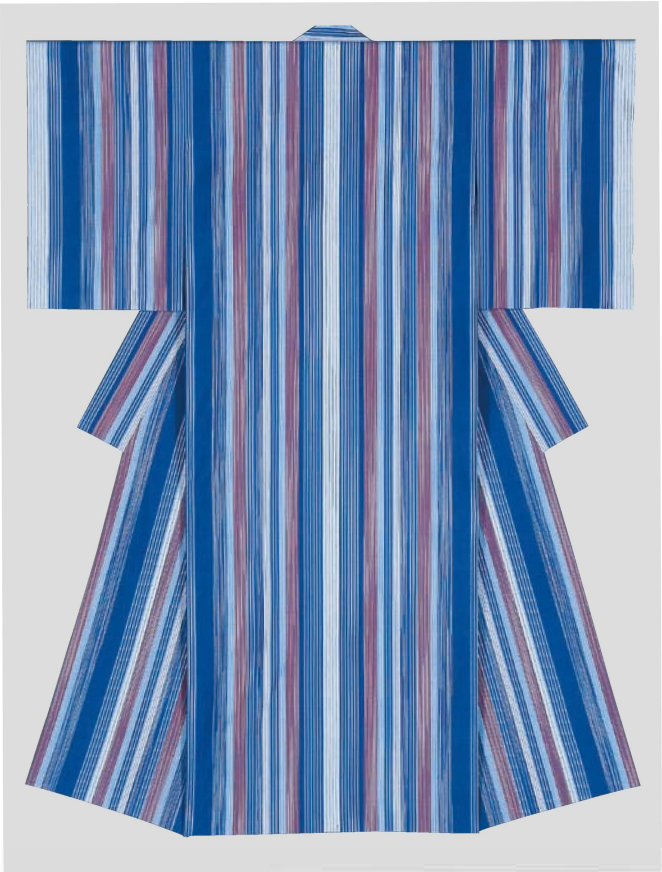


92　絹綿交織着物「潮彩」　鈴木良子

96　紬織着物「芙蓉」　永田敏美



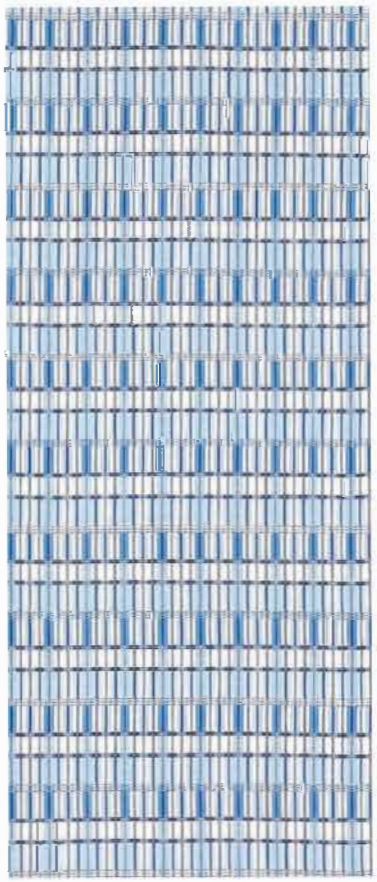
100　紬織着物「風薫る」　平工直子



104　木綿着物「茜雲」　森谷尚子

106　絹織着物「雪解け」　吉田美年子

107　ななこ織着物「日輪月輪」　渡会清子

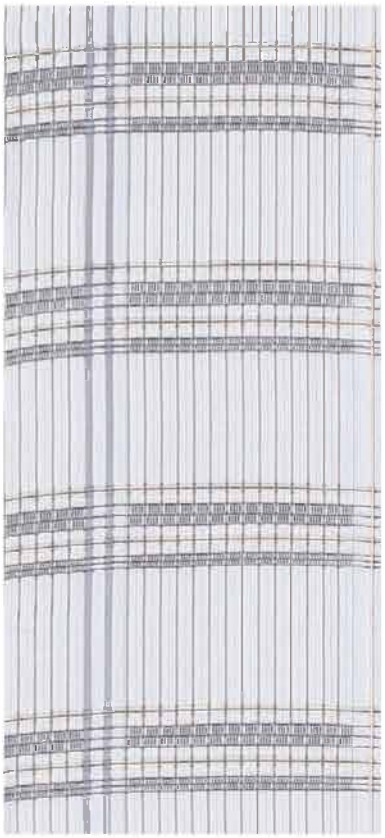


89　風通織着尺「さわ さわ さわ」　菰田眞理子

102　組紐「おりがみ」　松山好成

85　型絵染帯「白粉花」
勝　冨美江

83　型絵染帯地「秋びより」
稲葉洋子

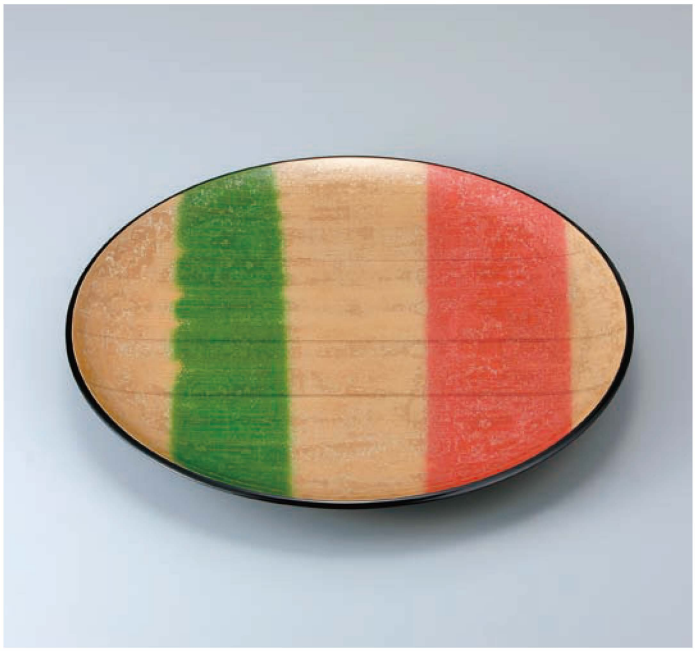


105　吉野格子帯「遠雷」
山崎瑛子

98　木綿帯地「もえいづる」
中村美喜子

99　葛布帯地「雪明かり」
西岡香織

109　紙胎金彩盤　50.0×50.0×6.0　安藤則義　**特待**



110　春彩蒟醤盆　36.2×36.2×3.8　鵜飼敏伸　**審査・特待**

111　黄蘗拭漆盛器　34.0×44.3×6.8　川口清三　**審査・特待**

122　「涔涔」蒔絵箱　13.0×20.0×11.8　若林雅子

108　紙胎金彩盛器　39.0×41.8×2.8　安藤源一郎

113　欅拭漆盛器　47.0×47.0×4.0　竹内祐志

112　足踏轆轤造り欅拭漆盛器　42.3×42.3×5.7　高橋力男

118　桑拭漆盛器　32.0×44.5×5.5　長谷川禎冶

117　欅拭漆盛鉢　38.8×38.8×6.5　二宮邦彦

120　立刺編花籃「炎立つ」　20.0×20.0×34.0　堀田博門

114　千本格子組花籠　15.0×42.0×20.0　冨野喜和

116　六つ目花籠　32.0×21.0×16.0　永冶　実

115　網代編み盛器　29.0×38.5×7.5　中井正樹

132　桐塑布紙貼「あと10秒」　22.5×17.0×16.5　堀部信子
審査・特待

127　桐塑紙貼「長閑」　15.0×21.5×20.0　小林佳子　**特待**

126　桐塑紙貼「龍の舞」　13.0×30.0×21.0　小嶋香代子
特待

134　桐塑布紙貼「渡海」　37.0×30.0×37.0　水野慎子

131　桐塑紙貼「明日へ」　13.0×10.0×24.0　野田リツ子

125　桐塑紙貼「近き夏」　10.0×13.0×39.0　久保田恵子

129　桐塑紙貼「遠い雲」　29.0×23.0×25.0　鷲見美代子

130　桐塑紙貼「行く春」　15.0×19.0×35.0　豊田亜也女

124　胡紛紙貼「春愁」　19.0×17.0×24.0　植田春代

123　桐塑紙貼「妙声の調べ」　14.0×23.5×27.0　板井かよ子

141　有線七宝抽象文花器　12.5×12.5×17.0　柴田　明　**審査・招待**

145　曲陵硯「墨想」　25.3×19.8×4.9　名倉鳳山　**審査・招待**

148　松竹梅七宝香炉　10.0×10.0×18.0　森　三喜男　**特待**

142　銀ガマズミの木箱　7.5×17.0×9.0　髙橋　かほる

138　七宝蓋物「未知の領域」　10.5×10.5×4.5　木村玲子

143　柿ノ実七宝香炉　9.0×9.0×8.0　田村丈雅

146　切子皿「蕾」　31.0×31.0×5.0　松田　博

137　せせらぎ文様七宝花瓶　16.0×16.0×30.0　太田美由紀

136　有線七宝鉢「柑露」　18.0×18.0×10.0　石王丸文代

遺 作

147　Nerikomi Porcelain「star crawler」　41.7×48.7×17.2　室伏英治

139　桐塑布紙貼「白砂の浜」　22.0×25.0×23.0　小林幸子

「小出基金」による

伝 統 の 技

(公社)日本工芸会東海支部作品制作記録事業

趣　旨

工芸の制作には、多種多様な素材と技法がある。

この事業は、「小出基金」を活用して工芸創作活動と伝統技法伝承の一助に資すべく、工芸各分野の素材・技法を研究することを目的としている。

このために、制作工程を段階別に保存するとともに、写真・映像に記録することとした。

そして、これを公開・展示し地域文化の向上に寄与する。

㉙諸工芸　省胎七宝

(株) 安藤七宝店

省胎七宝芥子文鉢　10.5×10.5×7.4

㉙ 諸工芸　省胎七宝

（株）安藤七宝店

図　案

七宝という言葉は本来仏典中に示されている七つの宝物を意味し、室町以降金属素地にガラスを焼き付けた工芸品を、その美しさから七宝と呼ぶようになったと言われています。七宝は、古代エジプトに起源を発する長い歴史を有しますが、現代日本の七宝は徳川時代後期尾張藩士である梶常吉によって基礎が作られました。

その伝統技法をふまえ、七宝素材を活かした現代に通じる作品作りを目指しています。

【図案の決定】

制作の中核となる形状・文様・色彩等、七宝の特色が充分に活かされているか検討を重ねる。

素地加工

【素地加工】

純銅板を機械絞り(スピニング)で成形する。今回は0.5mm厚銅板を使用した。

【裏釉・白透の施釉】

焼成の時に銅の素地が反るのを抑える為、裏釉を施釉する。次に、鉢の土台となる白透け(透明釉薬)を表に施釉し窯で焼成する。

【下絵付け】

墨で文様を線描きする。この時の注意する点は、デザイン原画(平面図)を鉢の球面にうまく合わせることである。

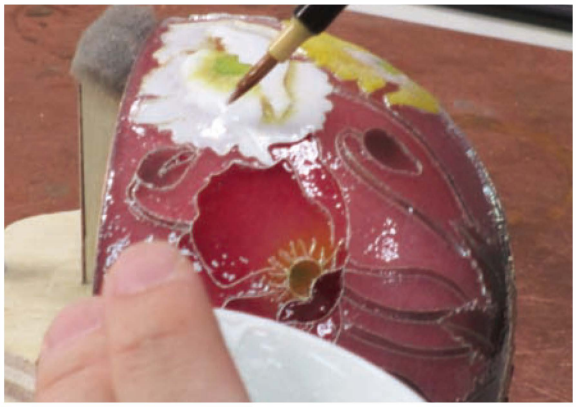
銀線付け

【銀線付け】

銀線は通常厚さ0.05～0.15mm、巾0.9～1.44mmのリボン状であるが、特殊サイズもあり、使用目的により使い分ける。ピンセットと鋏みで下絵に沿った形状を作り※白笈で接着する。今回は厚さ0.05mm、巾1.44mmを使用している。

【蝋焼】

銀線付けが完成した作品に白透けを薄く振りかけ、銀線を焼き付ける。焼成温度は800℃である。



施　釉

焼　成

研　磨

【釉薬】

七宝釉薬は鉛丹・硅石・硝石を主原料とし、着色剤として金属酸化物を用いる。配合原料を坩堝に入れ、炉温1200～1450℃で5～6時間加熱し、生成したガラス融液を水中に投入して粒状のガラス(フリット)とする。これらのフリットは粉砕・水洗いして、そのまま使用するものもあるが、さらに異なるフリットや顔料を混合し、半溶融(ほうろく合せ約800℃して、多彩な釉薬とする。

【施釉・焼成】

施釉は初番彩色(彩色→乾燥→焼成)・二番彩色(彩色→乾燥→焼成)・仕上彩色(彩色→乾燥→焼成)と、通常は三度繰り返す。焼成温度は約800℃である。

【脚付け】

純銀の板で成形した脚を、水平のバランスを確認しながら取り付け、窯の中で焼成し固定する。

【研磨】

表面を滑らかにして光沢を出し、釉薬が被っている銀線を出す為に研磨する。砥石はダイヤモンドペーパー200～6000番を使用する。

【胎を抜く】

胎である素地を硝酸で取り除く。まず表面を樹脂で覆い保護し、希硫酸に浸して裏釉を溶かす。次に、硝酸に浸して素地を溶かす。

【覆輪付け】

鉢の口元を、飾り金具で覆う。これを覆輪といい、材料には純銀又は真鍮を使用する。

※白笈‥‥‥紫蘭の球根を乾燥して粉末にし、水で溶き、糊とする。

第51回東海伝統工芸展 審査委員［敬称略］

審 査 委 員 長　内田　篤呉　MOA美術館長

一次　審査委員

◇陶芸部会

伊藤　嘉章　愛知県陶磁美術館 総長
酒井　博司　陶芸作家
清水　醉月　陶芸作家
鈴木　　徹　陶芸作家

◇染織部会・人形部会

坪井　則子　佐野美術館長
小林　佐智子　染織作家
堀部　信子　人形作家

◇漆芸・木竹工部会、金工・諸工芸部会

内田　篤呉
鵜飼　敏伸　漆芸作家
柴田　　明　七宝作家

二次　審査委員

内田　篤呉　伊藤　嘉章　坪井　則子
土屋　順紀　染織作家　名倉　鳳山　硯作家

授賞選考　審査委員

内田　篤呉　伊藤　嘉章　坪井　則子　土屋　順紀
名倉　鳳山　鯉江　　廣　陶芸作家　川口　清三　木工作家

第51回東海伝統工芸展 運営委員会 ［敬称略・順不同］

委員長	名倉　鳳山	(公社) 日本工芸会　理事 (公社) 日本工芸会 東海支部　幹事長 (公社) 日本工芸会 東海支部　金工・諸工芸部会長
委員	寺尾　晶子	中日新聞社　文化事業部 部長
	佐々木　一浩	NHK名古屋放送局 広報・事業部 部長
	岩井　一廣	岐阜髙島屋　美術
	鈴木　　藏	(公社) 日本工芸会　参与
	加藤　孝造	(公社) 日本工芸会　参与
	土屋　順紀	(公社) 日本工芸会　参与 (公社) 日本工芸会　理事
	鈴木　　徹	(公社) 日本工芸会　理事 (公社) 日本工芸会 東海支部　副幹事長
	鯉江　　廣	(公社) 日本工芸会 東海支部　陶芸部会長
	小林　佐智子	(公社) 日本工芸会 東海支部　染織部会長
	川口　清三	(公社) 日本工芸会 東海支部　漆芸・木竹工部会長 (公社) 日本工芸会 東海支部　総務委員長
	阪上　展子	(公社) 日本工芸会 東海支部　人形部会長
	若尾　　誠	(公社) 日本工芸会 東海支部　総務副委員長
	梅本　孝征	(公社) 日本工芸会 東海支部　総務副委員長
	谷口　幸二	(公社) 日本工芸会 東海支部　事務局

（公社）日本工芸会東海支部総務委員 ［順不同］

委員長	川口　清三		
副委員長	若尾　　誠	梅本　孝征	
委員	伊藤　公洋	加藤　圭史	鯉江　　廣
	小枝　真人	酒井　博司	清水　　潤
	西田　真也	前田　正剛	小林佐智子
	吉田美年子	安藤源一郎	鵜飼　敏伸
	阪上　展子	鷲見美代子	田村　丈雅

第 51 回東海伝統工芸展実行委員 ［順不同］

陶芸部会	加藤　尊也	黒岩　達大	酒井　紫羊
	佐藤　文子	竹内孝一郎	田中　　孝
	徳川　　浩	山田　英典	
染織部会	加藤　　玲	杉浦　雅子	松山　好成
	渡会　清子		
漆芸・木竹工部会	小林　哲也	馬淵　弘幸	
人形部会	水野　慎子		
金工・諸工芸部会	池田　貴普		
岐阜髙島屋	岩井　一廣		

第51回東海伝統工芸展受賞作品

日本工芸会賞　色絵流加彩割鉢　梅本　孝征（陶芸）

鉄象嵌の線描に、動きのある緑彩と褐彩。梅本が求めてきた世界である。

驚きは鉢の造形。広い底部から、開き気味に立ち上がっていく。側面を緩やかな弧で大胆に切り込む。その曲線から展開する蓮弁が内外の側面に巡り、見込みに描き彩られた百合が切り取られた空間から顔をのぞかせる。

意匠と彩りによる表現に、大きく踏み出した造形が融合することで、梅本は新たな表現の世界の扉を開いた。（伊藤嘉章）

東海伝統工芸展賞　友禅着物「芭蕉の下で」　遠山　尚子（染織）

生い茂る芭蕉と羊歯の葉、裾には青黒くうごめくワニの姿。糸目や堰出しといった伝統技法をうまく活かしてモチーフの重なりを整理する、デザイン処理の手際も見どころである。画面奥から手前にかけての絶妙な配色が遠近感を生み出し、落ち着いた色目ながら華やかさを感じさせる。生き物のまなざしの不思議さに惹かれるという作者だが、今後どのような表現を極めていくか楽しみである。（坪井則子）

愛知県知事賞　花紗織着物「水ぬるむ頃」　磯　緋佐子（染織）

「蝉の羽のような」とは、このような織物のことであろうか。

花紹織の技法で長年製作してきたが、地組織を紹から紗に変えることによって透明感が増し、花織の白がより一層効果的で美しく輝いて見える。作者がたどり着いた独自の技法である。青・緑・白の三色と精練・未精練二種の糸を微妙に使い分けることで奥行きと広がりを感じさせる肩身替りの格調高い作品である。（土屋順紀）

岐阜県知事賞　鉄絵掛分釉描大鉢「美男葛」　前田　正剛（陶芸）

轆轤での制作ですがアウトラインが自然な変化で作品の大らかさを感じ取れます。デザインされた「美男葛」の黒と赤（実）が白い釉の鉢の中で余白を残し微妙なバランスで心よく目に入ってきました。素焼き後、鉄絵の具で輪郭を描き、他を撥水材・陶画糊（液状ゴム）等によりマスキングを施して絵付け部分を施釉する。その後全体に白釉が施釉されている。施釉時の釉の流れによる変化など良く調和されていて、レベルの高い作品に仕上がっている。（清水醉月）

愛知県教育委員会賞　Fountain#1-Space-　名倉　達了（硯）

「硯とは思索にふけり言葉を紡ぐための泉のようなもの」と考える作者はこれを表現する為に、四つの実用性の硯を組み合わせて一つの造形的鑑賞硯に構築した。ここでは実存する硯の形態のみならず、それらの間に現れる空間こそが鑑賞の対象となる。そしてその空間は使用者によって無限に変化させることが可能である。これは一塊の石から彫り出す方法では為し得なかった空間表現であり、「泉」という作者の思いを投影する。自身の哲学を形に現わすことに挑んだ作者の創作力が、新たな硯の未来を切り拓いていくであろうことを予感させる作品である。（川口清三）

岐阜県教育委員会賞　桐塑糸紙貼「茜空」　阪上　展子（人形）

アメリカの下町、野球ボールを握りしめて遠くの空を見上げる少年、作者が長年あたためてきたモチーフを丁寧に形にしている。鼻や両手にベンガラを用い彩色するなど、夕方の赤みを帯びた陽ざしの表現も細やかである。小振りな印象だが、細部の造作が的確なので人形の持つ世界観が大きく心に響いてくる。桐塑に和紙貼りの仕上げ、服の一部に金糸を貼り込むさりげない装飾も好ましい。　（坪井則子）

三重県教育委員会賞　志野彩文花器　伊藤　公洋（陶芸）

力強い造形と多彩で複雑な釉薬の表情が特徴の志野の花器である。
作者は力強さを表現するために轆轤で器型に成形した後に削りではなく厚さの異なるタタラ板を側面に張り付けて凹凸を作り、三色の化粧土と六種類の志野釉を使いこの器を制作している。
作者の「現代の志野をつくりたい」という想いと、それを実現するための高い技術力が伝わってくる優品である。　（酒井博司）

静岡県教育委員会教育長賞　萬古黒角文鉢　清水　潤（陶芸）

萬古の紫泥土を使い、サンドブラストを用いて装飾された作品である。作者は、近年この技法に取り組んでいる。この作品の形体は口を少し内側にすぼませた口と胴の張り具合とがバランス良く、全体調和が美しい。今回少し焼成方法を変えたため、奥行きのあるランダムな角文様がめり張りよく見え、その形体と相まって流れの中の輝きを感じさせる作品である。　（鯉江　廣）

名古屋市長賞　神代杉木画箱　馬淵　弘幸（木工）

二千年以上もの間地中に埋まることで雅趣のある青灰色に変化した神代杉、その端正な柾目を用いた木画作品。素材を細かく切断し木目の方向を変え貼り合わせて文様を作り上げていくのだが、光の乱反射をも綿密に計算されたこの作品は見る角度によって、まるで立体であるかのように木画が浮き出て見えてくる。試行錯誤の末にたどり着いたデザインとそれを正確に形に出来る卓越した技術によって、木画の新たな可能性を感じさせる作品が生まれた。作者の弛まぬ研鑽の賜であろう。
（川口清三）

名古屋市教育委員会賞　生絹着物「水辺の譜花の詩」　神谷　あかね（染織）

連続三回受賞で注目されている三十代の作者は、今回も「冒険した」という。モネの水蓮の世界を着物で表現しようと、パソコンと手描きでデザインの推敲を重ねた。楕円形が小から大へと動き横筋が立体的にみえるように絣が配置され、ピンクと緑の配色が律動して、奥行きと広がりを展開している。さらに小さく光る浮き織りが水面を美しく輝かせている。高雅に咲く水蓮の水辺に立ち、花と葉をめでながらさわやかな風を受け、どこからともなく聞こえてくる心地よい調べを聴く思いにさせてくれる、若々しく華やかで優れた作品である。　（小林佐智子）

中日賞　万華鏡蒔絵合子　古田　一（漆芸）

中心部を白蝶貝による螺鈿、金の蒔絵で表し、縁部を白蝶貝と梨子地で描く。側面は研ぎ出しで金地を作った後、模様を付け描きし金粉と銅粉で仕上げた。蓋を開けると立ち上がり面には小ぶりな文様が蒔絵で描かれ、蓋裏にも同じく装飾を施し華やかさが増して楽しい。作者は万華鏡のパッとひろがる様子に魅かれ制作した。確かな蒔絵技術と素材の持つ美しさがあいまって華やかな合子である。

（鵜飼敏伸）

ＮＨＫ名古屋放送局長賞　有線七宝八角箱「氷河」　池田　貴晋（七宝）

ブルーの濃淡を巧みに配置して、爽やかな美しい八角形の箱である。十三種の釉薬を用いて、微妙な味わい深さを醸し出し、リズム感もあり、銀の縁取りも画面を引き締めていて効果的である。焼成時の変形も認められず、内部の処理も丁寧に仕上げてあり、細部にまで神経の行き届いた仕事がされている。作者の日々研鑽の証しであろう。

（柴田　明）

安藤氏賞　畝織着物「花筏」　水谷　陽子（染織）

作者は、ななこ織りを畝織りという名で学んだ。平織りの変化組織で経緯一本ずつの平織りと経緯二本ずつの平織りが交互に組みあわされることで市松模様が表れ、光が当るとキラキラと輝く効果をもたらす。ふわふわと漂う桜の花びらが一枚ずつ重なって一つのかたまりとなりそれが流されていく光景をそのまま鮮やかに華やかに着物に映し出した。ピンクはインド茜を経三色緯五色に染め、青は臭木からいただいて、共に透んだ色を発色させることに心をくだいたという。春爛漫の花吹雪をめでながらそぞろ歩きを楽しむ人々の笑顔までもが目に浮かぶ若々しい美しい秀作である。

（小林佐智子）

岐阜髙島屋賞　桐塑紙貼「風船」　松本　詩織（人形）

幼い少女が、初めて美しいと思った感動の瞬間の姿が素直に表現されている。素朴な小品だが、洋服に美しい青い空と白い雲の色を和紙で貼り重ねて作り出し、あどけない顔が空を見上げた目線の先に、風船が浮かんでいる様に感じられる。全体の色の調和も良く、丁寧に仕上げられている。若い作者の少ない中、今後の活躍を期待したい。

（堀部信子）

東濃信用金庫賞　天青器　プーチン（陶芸）

プーチンこと奔磬さんは台湾の人である。日本における伝統的な焼き物の発祥地のひとつである美濃の陶芸に深い関心を持ち、東海伝統工芸展に出品することによって、この地域の先輩の指導を受けられたらとの思いから、出品を続けているそうである。出品三回目の今回、初めての受賞となった。台湾の土と日本の磁土を合わせたものを使用、独自の釉薬を施釉し、電気窯で還元焼成している。この作品は、優雅な雰囲気と、明るい未来を表現したとのことであるが、柔らかなツボミの形と釉薬のバランスがとれた優品である。

（鈴木　徹）

入賞・入選者一覧表（招待者を含む）

重＝重要無形文化財保持者　招＝招待出品者　特＝特待者

審＝審査委員　賞＝入賞者（尚、名簿は各部会別五十音順）

通番	作品名		氏名	住所	記載頁
●陶芸（第一部会）					
1	釉はじき大鉢－薫風－		明石　朋実	愛知県瀬戸市	16
2	練上桜花紋組鉢		浅野　紀胡	岐阜県羽島市	21
3	青釉花器		東　正之	岐阜県多治見市	15
4	泥彩樹皮文花器		石塚　操	静岡県浜松市	13
5	油滴天目釉組鉢		市川　繁男	三重県鈴鹿市	22
6	志野彩文花器	賞	伊藤　公洋	愛知県高浜市	4
7	夏の園		伊藤　彩希	愛知県名古屋市	21
8	緑釉花器		伊藤　進矢	岐阜県多治見市	12
9	練込大鉢	特	伊藤　雄志	愛知県常滑市	11
10	染付どくだみ文組鉢		井上　匠	愛知県瀬戸市	21
11	草図花器		岩渕　寛	愛知県尾張旭市	15
12	象嵌壷		上田　敏久	愛知県豊田市	15
13	色絵流加彩割鉢	賞	梅本　孝征	愛知県瀬戸市	1
14	備前練込広口花器		江口葉菜子	愛知県名古屋市	14
15	吹墨岩絡幾何文扁壷		太田　公典	愛知県岡崎市	14
16	青白磁花文大皿		大谷　鉦五	愛知県小牧市	19
17	染付角陶筥里山		大野　淳一	岐阜県多治見市	20
18	霧染組鉢「朝顔」		小形こず恵	静岡県藤枝市	21
19	黒彩線文花器		春日井正人	愛知県名古屋市	12
20	織部流華紋鉢		加藤　圭史	愛知県瀬戸市	16
21	黄瀬戸花入	重・招	加藤　孝造	岐阜県多治見市	9
22	志野鉢		加藤　尊也	岐阜県多治見市	16
23	色絵松文皿		加藤登紀子	三重県四日市市	19
24	藍彩鉢		加藤　裕	岐阜県多治見市	16
25	白緑釉広口花器		加納　真爾	岐阜県土岐市	14
26	自然薯文皿－螺層－		柄澤あかり	愛知県豊田市	18
27	古美濃花入		木村　元	岐阜県土岐市	20
28	黄瓷輪花組鉢		木村　将人	三重県四日市市	21
29	緋色壷		草間　祥介	三重県員弁郡	14
30	赫釉花器		黒岩　達大	岐阜県可児市	15
31	あけぼの彩　茶注	審・特	鯉江　廣	愛知県常滑市	10
32	灰釉盤「風」		小出　芳弘	愛知県常滑市	17
33	彩華釉鉢		小山　裕之	静岡県浜松市	20
34	青瓷組皿		近藤　淳子	愛知県名古屋市	21
35	志野掛角皿		斉藤　之康	愛知県豊田市	20
36	染付深鉢　鯨		小枝　真人	静岡県伊東市	15
37	椿紋大皿		酒井　紫羊	岐阜県岐阜市	16
38	藍色志野壷	審・特	酒井　博司	岐阜県土岐市	10
39	透光磁練上「知床・アモーレ」朝		ささき美鳥	静岡県沼津市	17
40	染付芙蓉文皿		佐藤　征司	愛知県名古屋市	18
41	鉄絵山帰来文鉢		佐藤　文子	愛知県長久手市	15

42	硬から溶へ「花器」		澤田　朋大	愛知県常滑市	13
43	彩磁アカンサス文大皿		島田　文雄	静岡県伊東市	19
44	練込鉢		清水　潮	三重県四日市市	13
45	萬古黒角文鉢	賞	清水　潤	三重県四日市市	5
46	萬古楓文急須	審・特	清水　醉月	三重県四日市市	10
47	織部彫紋壷		清水　進	三重県桑名市	13
48	焼締南蛮窯変急須		清水　北條	愛知県常滑市	22
49	象嵌花文花器		清水美香子	愛知県長久手市	13
50	志野茶碗	重・招	鈴木　藏	岐阜県多治見市	9
51	志野大鉢		鈴木　健	岐阜県多治見市	17
52	緑釉鉢	審・特	鈴木　徹	岐阜県多治見市	10
53	灰釉大皿		竹内孝一郎	愛知県常滑市	18
54	灰釉彫紋花器		武村　豊徳	三重県桑名市	13
55	朽葉釉波紋壷		田中　孝	岐阜県土岐市	12
56	鉄釉彩鉢	特	谷川　省三	愛知県常滑市	11
57	灰釉彫紋皿	特	田沼　春二	愛知県瀬戸市	11
58	織部茶盌	特	玉置　保夫	岐阜県多治見市	11
59	白瓷鉢		塚本　満	岐阜県土岐市	19
60	藻がけ渦文緋窯彩茶注		土平　栄一	愛知県常滑市	22
61	黄瀬戸鉢		徳川　浩	静岡県掛川市	18
62	sea－Ⅱ		戸田奈都子	愛知県長久手市	17
63	灰釉緑彩鉢		冨田　浩一	愛知県名古屋市	16
64	象嵌泥彩花器		西田　真也	三重県三重郡	17
65	鉄釉幾何文鉢		二橋　奈美	静岡県浜松市	19
66	三層表裂壷		野末　静代	静岡県浜松市	12
67	天青器	賞	プーチン	愛知県名古屋市	8
68	鉄釉銀彩壷		古田　正己	岐阜県土岐市	12
69	鉄絵掛分釉描大鉢「美男葛」	賞	前田　正剛	愛知県岡崎市	3
70	焼締南蛮線紋茶注		水野　陽景	愛知県常滑市	22
71	青街図鉢「夕景」		宮下　陽	愛知県愛知郡	17
72	窯変茶注		森下　松斎	愛知県常滑市	22
73	鉄線文鉢		森本　静花	愛知県瀬戸市	18
74	彫文鉢－崑崙花－		屋我　優人	愛知県瀬戸市	18
75	cross stripes bowl		矢作　薫	愛知県瀬戸市	20
76	炭化焼〆壷		藪谷　尚子	三重県伊勢市	12
77	紺彩泥線文花器「流星」		山口　剛	静岡県浜松市	14
78	黄瀬戸大皿		山田　英典	岐阜県土岐市	19
79	辰砂花器		杉山　哲子	静岡県浜松市	14
80	粉青瓷茶垸		若尾　誠	岐阜県多治見市	20

●染織（第二部会）

81	花紗織着物「水ぬるむ頃」	賞	磯　緋佐子	愛知県名古屋市	2
82	吉野格子紬織着物「春への道」		伊藤　紗綾	三重県いなべ市	25
83	型絵染帯地「秋びより」		稲葉　洋子	静岡県富士市	28
84	紬織着物「うめ」		奥中　竹代	愛知県豊橋市	25
85	型絵染帯「白粉花」		勝　冨美江	静岡県沼津市	28
86	生絹着物「水辺の譜花の詩」	賞	神谷あかね	愛知県岡崎市	6
87	織帯「銀杏」	特	小林　敬子	愛知県岡崎市	23
88	風通織木綿着物「野に遊ぶ」	審・特	小林佐智子	愛知県知多郡	24
89	風通織着尺「さわ さわ さわ」		菰田眞理子	愛知県田原市	27
90	紬織着物「かごめ」		杉浦　雅子	愛知県東海市	25

91	生絹着物「小波」		鈴木　節	三重県伊勢市	25
92	絹綿交織着物「潮彩」		鈴木　良子	愛知県一宮市	26
93	型絵染着物「湿原の春」		田中さと子	静岡県富士市	24
94	紋紗帯地「萩瀧」	重・審・招	土屋　順紀	岐阜県関市	23
95	友禅着物「芭蕉の下で」	賞	遠山　尚子	岐阜県岐阜市	2
96	紬織着物「芙蓉」		永田　敏美	愛知県岡崎市	26
97	型絵染着物「シクラメン」		中野とも子	静岡県裾野市	24
98	木綿帯地「もえいづる」		中村美喜子	静岡県浜松市	28
99	葛布帯地「雪明かり」		西岡　香織	静岡県浜松市	28
100	紬織着物「風薫る」		平工　直子	愛知県みよし市	26
101	ほぐし絣着物「洋」	特	間瀬　邦子	愛知県豊田市	24
102	組紐「おりがみ」		松山　好成	三重県名張市	27
103	畝織着物「花筏」	賞	水谷　陽子	三重県松阪市	7
104	木綿着物「茜雲」		森谷　尚子	三重県松阪市	26
105	吉野格子帯「遠雷」		山崎　瑛子	愛知県一宮市	28
106	絹織着物「雪解け」		吉田美年子	愛知県豊田市	27
107	ななこ織着物「日輪月輪」		渡会　清子	愛知県名古屋市	27

●漆芸・木竹工（第三部会）

108	紙胎金彩盛器		安藤源一郎	愛知県豊田市	30
109	紙胎金彩盤	特	安藤　則義	愛知県豊田市	29
110	春彩蒟醤盆	審・特	鵜飼　敏伸	愛知県名古屋市	29
111	黄蘗拭漆盛器	審・特	川口　清三	愛知県碧南市	29
112	足踏轆轤造り欅拭漆盛器		高橋　力男	三重県三重郡	30
113	欅拭漆盛器		竹内　祐志	愛知県名古屋市	30
114	千本格子組花籠		冨野　喜和	岐阜県岐阜市	31
115	網代編み盛器		中井　正樹	愛知県名古屋市	31
116	六つ目花籠		永冶　実	愛知県名古屋市	31
117	欅拭漆盛鉢		二宮　邦彦	三重県鈴鹿市	31
118	桑拭漆盛器		長谷川禎冶	静岡県島田市	30
119	万華鏡蒔絵合子	賞	古田　一	岐阜県美濃市	6
120	立刺編花籃「炎立つ」		堀田　博門	岐阜県岐阜市	31
121	神代杉木画箱	賞	馬淵　弘幸	岐阜県岐阜市	5
122	「涔涔」蒔絵箱		若林　雅子	愛知県名古屋市	29

●人形（第四部会）

123	桐塑紙貼「妙声の調べ」		板井かよ子	愛知県瀬戸市	33
124	胡紛紙貼「春愁」		植田　春代	三重県四日市	33
125	桐塑紙貼「近き夏」		久保田恵子	愛知県丹羽郡	33
126	桐塑紙貼「龍の舞」	特	小嶋香代子	愛知県愛知郡	32
127	桐塑紙貼「長閑」	特	小林　佳子	愛知県知多郡	32
128	桐塑糸紙貼「茜空」	賞	阪上　展子	愛知県愛知郡	4
129	桐塑紙貼「遠い雲」		鷲見美代子	愛知県小牧市	33
130	桐塑紙貼「行く春」		豊田亜也女	愛知県名古屋市	33
131	桐塑紙貼「明日へ」		野田リツ子	愛知県名古屋市	33
132	桐塑布紙貼「あと10秒」	審・特	堀部　信子	愛知県名古屋市	32
133	桐塑紙貼「風船」	賞	松本　詩織	岐阜県岐阜市	8
134	桐塑布紙貼「渡海」		水野　慎子	愛知県瀬戸市	32

●金工・諸工芸（第五部会）

135	有線七宝八角箱「氷河」	賞	池田　貴普	愛知県名古屋市	7
136	有線七宝鉢「柑露」		石王丸文代	静岡県藤枝市	35
137	せせらぎ文様七宝花瓶		太田美由紀	愛知県あま市	35
138	七宝蓋物「未知の領域」		木村　玲子	愛知県あま市	35
141	有線七宝抽象文花器	審・招	柴田　明	愛知県瀬戸市	34
142	銀ガマズミの木箱		髙橋かほる	静岡県静岡市	34
143	柿ノ実七宝香炉		田村　丈雅	愛知県あま市	35
144	Fountain#1－Space－	賞	名倉　達了	静岡県静岡市	3
145	曲陵硯「墨想」	審・招	名倉　鳳山	愛知県新城市	34
146	切子皿「蕾」		松田　博	静岡県沼津市	35
148	松竹梅七宝香炉	特	森　三喜男	岐阜県土岐市	34

遺作

147	Nerikomi Porcelain「star crawler」	室伏　英治	36
139	桐塑布紙貼「白砂の浜」	小林　幸子	36

第 51 回応募者・入選者概況

		愛知県			岐阜県			三重県			静岡県			計		
		応募	入選	招待	応募	入選	招待	応募	入選	招待	応募	入選	招待	応募	入選	招待
第一部会 陶芸	出品者数	38	33	4	18	16	5	13	10	1	17	11	0	86	70	10
	出品点数	44	33	4	22	16	5	17	10	1	22	11	0	105	70	10
第二部会 染織	出品者数	12	11	3	1	1	1	5	5	0	11	6	0	29	23	4
	出品点数	13	11	3	1	1	1	5	5	0	11	6	0	30	23	4
第三部会 漆芸・木竹工	出品者数	6	5	3	6	4	0	3	2	0	1	1	0	16	12	3
	出品点数	6	5	3	6	4	0	4	2	0	1	1	0	17	12	3
第四部会 人形	出品者数	7	7	3	2	1	0	1	1	0	0	0	0	10	9	3
	出品点数	7	7	3	2	1	0	1	1	0	0	0	0	10	9	3
第五部会 金工・諸工芸	出品者数	5	4	2	0	0	1	1	0	0	4	4	0	10	8	3
	出品点数	5	4	2	0	0	1	2	0	0	4	4	0	11	8	3
合計	出品者数	68	60	15	27	22	7	23	18	1	33	22	0	151	122	23
	出品点数	75	60	15	31	22	7	29	18	1	38	22	0	173	122	23
														遺作		2

※応募数には、招待数を含みません。

表紙　色絵流加彩割鉢　梅本孝征

展覧会事務局

瀬戸市 赤津町 78　〒 489-0022
公益社団法人 日本工芸会 東海支部 事務局
TEL/FAX(0561) 85 ― 5335

発行　公益社団法人日本工芸会東海支部©
制作　㈱東名グラフィックス
撮影　スタジオエフ

第51回 東海伝統工芸展図録編集委員

委員長　梅本孝征
副委員長　加藤圭史　清水　潤
【陶芸】　黒岩達大　山田英典
【染織】　杉浦雅子
【漆・木竹】　鵜飼敏伸
【人形】　鷲見美代子　水野慎子
【諸工芸】　田村丈雅

公益社団法人 日本工芸会 東海支部
http://nihonkogeikai-tokai.com